

平成 21 年 1 月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

1 月 4 日にニューギニア付近で M7.6 の地震が発生し、この地震により伊豆・小笠原諸島、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸、沖縄県で津波を観測しました。

1 月 16 日に千島列島東方〔千島列島〕で M7.4 の地震が発生し、この地震により父島で小さな津波を観測しました。

なお、1 月中に震度 5 弱以上を観測した地震はありませんでした。

全国で震度 1 以上を観測した地震の回数は 96 回、日本及びその周辺における M4.0 以上の地震の回数は 73 回でした。

国土地理院の GPS 観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

[火山活動]

浅間山では、傾斜変動と火山性地震の増加により、火口から 4 キロメートルの範囲に影響を及ぼす噴火が切迫していると予想し、2 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを 2 から 3 に引き上げました。その後、2 日 01 時 51 分頃に小規模な噴火が発生しました。またこの噴火により、弾道を描いて飛散する大きな噴石が、火口の北側約 1 キロメートルまで飛散するのを確認しました。

桜島では、2 月 1 日から 2 日にかけて、昭和火口で 8 回爆発的噴火が発生しました。このことから噴火活動が活発化する傾向にあると判断し、2 月 2 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを 2 から 3 に引き上げました。

口永良部島では、GPS による地殻変動観測で、新岳火口浅部の膨張を示す変化が続くなど、依然として火山活動が高まった状態となっており、火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

雌阿寒岳では、ポンマチネシリ火口の噴煙はやや多い状態で推移しました。雌阿寒岳では、火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いており、火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

諏訪之瀬島では、小規模な噴火が時々発生しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注 2：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 20 年 12 月～平成 21 年 1 月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2009/goudou0206.html>

注 3：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成 21 年 1 月号(平成 21 年 2 月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 5：平成 21 年 2 月の地震活動及び火山活動については、平成 21 年 3 月 6 日に発表の予定です。